

特集『平成14年度誌上研究成果発表会』に寄せて

富 樫 巖

平成15年4月17日（木）、13:15～16:10、林産試験場を会場にして、「平成14年度林産試験場研究成果発表会」を開催しました。

11回目となる今回は、『木材利用による環境調和型社会』をメインテーマに設定し、関連する最近の研究成果5件の口頭発表を行いました。そこで本誌では、この口頭発表の研究成果の特集を組みました。なお、5件のうちの1件につきましては、すでに林産試だより（2002年3月号「木製コンテナの製品開発」）で紹介していることから割愛しています。

歴史をひも解いてみますと、林産試験場の研究成果発表会は、平成5年3月24日に開催した平成4年度の研究発表会が始まりです。初回から現在まで、発表形態として口頭発表、展示発表および実演の3つを行ってきました。2回目の開催からは、開催時期を科学技術週間（発明の日となる4月18日を含む月曜日から日曜日の1週間）に開催するようになりました。口頭発表に注目すると、当初は研究部長が担当して各部の成果を取りまとめて発表していましたが、5回目以降は研究担当者が発表しています。

さて、本誌に掲載した記事ですが、「未利用材の有効利用と身近な製品開発例」として、端材を上手に活用した夢と遊び心が売りの『自在ブロック』などの紹介、「熱処理による木材の用途開発—環境調和型資材への変換—」として、木材に300℃程度の熱処理を施すことで、アンモニアの吸着性能、および大気汚染物質の一つであるNOxを無害化する触媒性能の付与ができることなどを紹介しています。また「室内空気環境におけるVOC対策」では、建築資材から放散するホルムアルデヒドの測定手法と技術的課題の解決に向けたノウハウ、およびホルムアルデヒド吸着剤（材）の性能評価例をお示ししています。最後の「未利用副産物を活用したきのこ栽培技術の確立」では、シイタケの原木栽培で排出される「廃ホダ木」を、再度、きのこ栽培資材（おが粉の代用品）として利用した場合のメリットを紹介しています。

林産試験場としては、以上のような研究成果が木材産業界等で採用され、具体的な商品となって市場に流通することを期待しています。



平成14年度研究成果発表会における口頭発表の様子

（林産試験場 普及課）